

# 形容詞

うれし	赤し	基本形
うれ	赤	語幹
しから	から	未然形
しかり	かり	連用形
○	○	終止形
しかる	かる	連体形
○	○	已然形
しかれ	かれ	命令形
シク活用	ク活用	活用

①ものの性質・状態や感情を表す語で、  
言い切りは「し」

②「し」を除いた部分が語幹である

③「ク活用」「シク活用」の二種類がある

④「なる」につづけて、「しくなる」はク活用、「しくなる」はシク活用。

⑤または接続助詞の「て」をつける。

〈例〉・赤くて↓(ク活用)

・うれしくて↓(シク活用)。

⑥ 形容詞の下に助動詞があつたら左の補助活用「から・かり・かる」を使う。ただし、断定の助動詞「なり」の場合のみは本活用を使う

〔例〕 美しかりける ↓ ○(美しくける ↓ ×)  
美しきなり ↓ 「なり」は断定の助動詞  
美しかるなり ↓ 「なり」は伝聞推定の助動詞

### ⑦ 形容詞の語幹の用法

名詞(A) + を + 形容詞の語幹(B) + み  
↓ A が B なので

※ 「名詞(A)」・「を」は省略されること  
がある

〔例〕 A を B み ↓ 人を多み(人が多いので)

A B み ↓ 山寒み(山が寒いので)

B み ↓ 浅み(浅いので)

※ 「み」を「し」に変えて形容詞になれば  
その「み」は「なので」と訳す

## 形容詞 (例外)

※通常の活用とは異なる例外的な活用をする形容詞は二つ。

同じ

多かり

〈例〉同じ港 ↓ 普通なら港は体言だから上は連体形で「同じき」でないとおかしい。でも「同じ」は例外。今でも使っている。え!? 「それ同じこと」って。

〈例〉多かる人 ↓ 普通なら「多き人」という終止形「多かり」という形容詞と思え! 「多かり。」の活用形(↓終止形)がきかれる!